



試験結果は以下のとおりであることを証明する。
平成28年4月28日

接合部性能試験成績証

受付日：平成28年3月28日
受付番号：HP16-KT035

東京都港区芝5-33-7
徳栄ビル本館4階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 川股孝志

1. 接合金物名称	ベストコーナー
2. 試験依頼者	株式会社 カナイ 〒340-0833 埼玉県八潮市西袋717-1
3. 目的	① 枠組壁工法建築物の接合部の「基準許容応力」及び「基準終局耐力」を試験により評価する。 ② 「基準許容応力」から「降伏耐力」を算出し、「基準終局耐力」との比較結果より、「短期許容耐力」を確認する。
4. 試験内容	「たて枠-床根太」の引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は2007年枠組壁工法建築物構造計算指針による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「ベストコーナー」 材 質: SGHC*1 寸 法: 87mm×135mm×40mm (外形) t=3.2mm 接合具用孔 12-φ6.4mm 2-φ6.2mm 表面処理: Z27*2</p> <p>2) 接合具</p> <p>たて枠側: 「鍋頭ねじ φ6.0×75」8本 材 質: 冷間圧造用炭素鋼の内、既定の化学成分*3を満足するもの 寸 法: 頭部φ9.85mm L=75mm 表面処理: デュラルコート*4</p> <p>床根太側: 「鍋頭ねじ φ6.0×150」4本 材 質: 冷間圧造用炭素鋼の内、既定の化学成分*3を満足するもの 寸 法: 頭部φ9.85mm L=150mm 表面処理: デュラルコート*4</p> <p>「ロングビスIC-180」2本 材 質: 冷間圧造用炭素鋼の内、既定の化学成分*3を満足するもの 寸 法: 頭部φ11mm L=180mm 表面処理: デュラルコート*4</p> <p>3) 枠組材料</p> <p>たて枠: 38mm×89mm×700mm スギ 枠組壁工法構造用製材甲種2級 2枚 含水率: 9.0~11.5% 全乾密度: 0.37~0.43g/cm³</p> <p>下枠(上): 38mm×89mm×262mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材甲種2級 含水率: 12.5~15.0% 全乾密度: 0.40~0.44g/cm³</p> <p>下枠(下): 38mm×89mm×600mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材甲種2級 含水率: 13.5~15.0% 全乾密度: 0.40~0.46g/cm³</p> <p>床合板: 89mm×600mm 厚さ15mm 配向性ストランドボード 含水率: 8.0~9.5% 全乾密度: 0.53~0.62g/cm³</p> <p>床根太: 38mm×140mm×1000mm S-P-F 枠組壁工法構造用製材甲種2級 2枚 含水率: 15.0~16.0% 全乾密度: 0.39~0.42g/cm³</p> <p>4) その他</p> <p>たて枠同士の接合: 太め鉄丸くぎCN75 5本 @300mm 下枠-たて枠の接合: 太め鉄丸くぎCN90E 4本 下枠同士の接合: 太め鉄丸くぎCN90F 2本 @100mm 下枠-床合板の接合: 太め鉄丸くぎCN90F 4本 千鳥@150mm 床合板-床根太の接合: 太め鉄丸くぎCN65F 8本 @150mm 2列 床根太同士の接合: 太め鉄丸くぎCN75F 6本 @300mm</p> <p>*1 引張強さ270N/mm²以上の鋼板 *2 両面めっきの最小付着量275g/m²(3点平均)以上の防錆処理 *3 C(0.18~0.23%), Si(0.10%以下), Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下), S(0.035%以下), Al(0.02%以上) *4 電気亜鉛めっき Ep-Fe/Zn5/CM2(JIS H 8610 及び JIS H 8625)以上の防錆処理</p>
6. 試験条件等	試験体は接合部を実状に合わせた仕様としている。 試験体は、たて枠中心から床根太の両側400mmの位置で鉄骨架台に鋼帯(接触面の幅: 75mm)を用いて強固に緊結した。
7. 試験結果	基準許容応力 10.23 kN、基準終局耐力 28.28 kN、短期許容耐力 15.34 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター第二試験場: 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成28年3月29日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 千葉 博 加川 啓介 宇山 善博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。